

「確かな学力の向上に向けた Success Story “5つのS”」

目指す子どもの姿

今日学んだことを伝えたくなる子ども
～家庭学習力の育成～

**まずは、「確かな学習習慣」の育成に
学校全体で取り組みましょう！**

⑤ School Management

学校全体でビジョンを共有し、ベクトルをそろえよう

④ Study Homework

「確かな学習習慣」から「家庭学習力」へ

これらの現状を踏まえて

③ See gap and relation

子どもと先生の意識の相違点と関係性！？

② Smile Teacher

先生たちの現状は？

① Student First

子どもたちの現状を把握しよう！



「確かな学習習慣」から「家庭学習力」へ

綾瀬の子どもたち全体で取組んで欲しいこと。

◎振り返り（復習）を3回行う！！

復習1回目

授業の終わりに振り返り（復習）



復習2回目

帰りの会で振り返り（復習）



復習3回目

家庭で振り返り（復習）

- ・授業で「何を学んだか」が明確になるようにしましょう。
- ・「分かったこと」「分からなかったこと」も含めて考えられるようにしましょう。
- ・子どもが「何を学んだか」、振り返る時間を設定しましょう。
- ・簡単に振り返りができるように工夫しましょう。例) 振り返りシート等の活用等
- ・家庭で子どもたちがどのように振り返り（復習）をすればよいか分かるよう、最初の段階は丁寧な説明が必要です。
- ・家庭でできたことについて、たくさん褒めてあげましょう。

家庭学習の取組みの例

- ・家庭学習に取組む目安の時間は、1時間以上
- ・小学4年生から中学3年生まで継続する

①家庭での振り返り（復習）

- ・学校で学んだことについて振り返る。
(感想をかく、練習問題をやる、分からなかったことをまとめて調べる、さらに調べてみたいことについて調べるなど)

②基礎・基本の定着

- ・算数（数学）計算問題、漢字練習、英単語習得、短作文（日記）等。

③音読・読書

- ・積極的な働きかけをしていく。国語等の教科との関連も考慮。

④自主学習ノート

- ・最終的には、ここを最も充実させたいところである。
- ・何に取り組むのかを自らの意思で決定し、主体的に学習を進めていく。
- ・毎日取り組むことを目標に、少しずつ取り組めるようにしたい。

※これらは参考例です。各学校でビジョンを共有し、取り組めるところから確実に実施し、続けることが重要です。